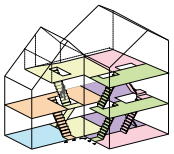
シモキタハウス

独特の距離感で浮かぶ家型ボリューム

斜線で決まる建物ボリュームを若干調整して、二つの単純な家型とし、外観のスケールを落とした。外部からは、複雑に入り組んだ各部屋の輪郭を知ることができないだけでなく、同じ形の大きさの異なる窓が並ぶファサードは、グラフィカルな奥行きを作り出す。建てこんだ中のシンプルな家型は、閉じているわけでも周囲と離れているでもないが、複雑な内部を包みながら、周囲から独特な距離感で浮かんでいる。

5号室の3F部分。
旗竿敷地の周辺の様子が大小の窓から伺える。

2号室の2F部分。



高密度な住宅街の旗竿敷地

敷地の周囲は、駐車場も一部あるが、かなり近接して住宅が建っている。築年数や利用状況から、遅かれ早かれ、それらは建て替えられるだろう。計画建物にはどの方位にも約束された空地はないことから、正面性をもたない計画とすべきと考えた。

明と暗を組み合わせる

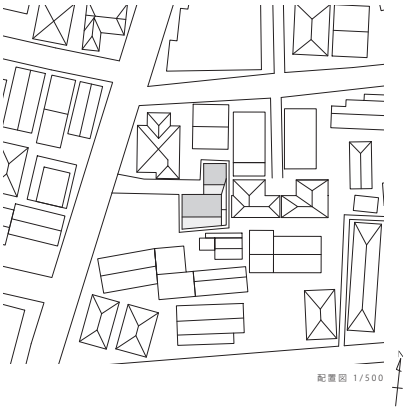
3階と1階では日当たりなど室内環境がずいぶん異なることが予想されたが、それらを別の住戸とするよりも、適切に組み合わせて一つの住戸としたほうが、明暗の両方を空間の質にできるし、全体の賃貸価値も高まると考えた。

大小の相似形の窓

窓は、構造壁をとりやすい縦長の相似形とし、周囲の現状を考慮しつつも依存しないように、建物が近接した状況と、視線の抜ける状況を、等価に扱いたいと考えた。間近に建つ隣家が、軒樋のディテールや壁のテクスチャに分解され、少し離れた赤い屋根の家と同様に、それぞれ1枚の絵となるような状態をイメージした。そのため比較的大きな窓を設けつつも、部屋はどの方角にも正面性を持たない。

1階と3階をつなぐ折り返し階段

1階から3階まで距離感を縮めるため、一度の折り返しで登れるよう各階は鉄砲階段とし、他の住戸の階段と上下に重ねることで平面的な効率化を図っている。



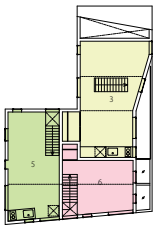
配置図 1/500

用途	集合住宅
敷地面積	145.74 ㎡
建築面積	72.42 ㎡
延床面積	200.81 ㎡
建蔽率	49.69%(許容：58.82%)
容積率	137.79%(許容：194.11%)
階数	地上3階
構造種別	木造

a-a断面図 1/150

1F

2F



3F

平面図 1/150

3号室の3F部分。
ふたつの家型をまたいで位置する。

6号室の1F部分
暗い1Fに階段室から日が差し込む。